

教育課程委員会報告

2021.10.15 第二次研究協議会

(15:15~15:25)

- ・事前アンケートの集約結果報告
- ・新学習指導要領完全実施の情報交流

教育課程・評価方法に関するアンケートのまとめ

保体(中)部会 教育課程委員

0. はじめに

今回実施させて頂いたアンケートは、石教研保体部会で作成した「教育課程（展開編）」の活用状況の把握と3観点の変更に伴う評価方法についての疑問点等を交流して頂くことを目的としています。多くの学校で「教育課程（展開編）」を活用されていることが分かりました。今後も各校の実態に合わせてご活用頂ければと思います。他方、一部で周知に課題があり、活用までに至らない学校もありましたので今後に生かしたいと考えております。

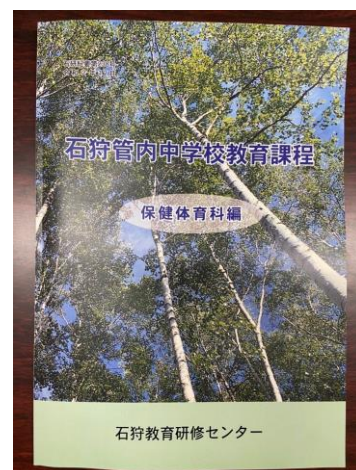
評価については、一人一台端末を活用した実践工夫や観点によっては評価方法に苦慮している部分も見受けられました。以下にアンケート結果をまとめましたので今後の指導工夫にお役立ていただければと思います。業務でお忙しい中、アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。

1. 3観点への変更に伴う評価材料について

<各学校の評価に基づく実践例> ※アンケートのまとめ※

①知識・技能

- ・ 端末を活用し、動画の撮影および記録。
- ・ できるだけ運動の動画を数多く保存し、過程が見えるようにした。
- ・ 定期テストの廃止



<教育課程「展開編」冊子>

②思考・判断・表現

- ・ 単元の最後に振り返りの学習カードを使用し、「思考・判断・表現」の評価材料とした。
- ・ 話し合い活動の見取りの回数が増えている。
- ・ 単元ごとに評価規準を確認し、ワークシートを活用して思考・判断・表現の評価材料としています。
- ・ 実技に関しては、課題に対する振り返りをワークシートに記入させる。活動時間を確保するために、宿題にすることもあるのでそこは今後の課題。
- ・ 1つの単元が終わるごとに、まとめのレポートを書かせる。
- ・ 毎時間、ワークシート（学習カード）を記入させ、提出させている。
- ・ 練習段階での課題追求練習（例 走り幅跳びの助走→踏み切り動作）の様子を評価し、「思考・判断・表現」の評価材料とした。
- ・ 映像を見て「判断」（ゲーム評価）「表現」（フォーム）の確認を行い、評価材料とした。

- ・ワークシートに個人内評価、思考の材料を見取れる欄を作成した。
- ・定期テストの廃止

③主体的に学習に取り組む態度

- ・「学びの記録」として毎時間の振り返りシートを活用して、学びに向かう力の評価材料とした。

④3 観点共通

- ・観点が変わったが評価材料については大きく変わっていない
- ・教科部会の中で素点や重みづけの確認などを行い、統一したシートを使用することで、ズレをなくした。
- ・3 観点の満点を年度はじめの教科担任で打ち合わせを行い、ばらつきがないようにした。
- ・動画・ワークシート・PC での提出物や JamBoard での記録
- ・iPad を利用し、実技テストやゲーム等を記録している。
- ・ワークシートやタブレットを活用して評価材料としている。
- ・Googleform→スプレッドシートの流れでレポートを作成。管理がとてもしやすい。

2. 評価方法で交流したいことがあれば記述してください(自由記述)

①知識・技能

- ・技能テストを実施しているかどうか？必要かどうか。
- ・知識と技能の配分について
- ・各学校の技能の具体的な評価規準を交流できればと思います。
- ・知識と技能の配分について

②思考・判断・表現

- ・「思考・判断・表現」の評価項目のうち、運動の様子をどのように評価しているか。

③主体的に学習に取り組む態度

- ・「主体的に学びに向かう態度、人間力」はどのように評価しているか。
- ・主体的に取り組む態度の評価材料について知りたい。 → 見取りだけなのか
- ・主体的な態度を評価する材料の具体例を交流したい。
- ・学びに向かう力、人間性の部分でどのような評価方法があったのか交流したい。
- ・思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む姿勢の見取りでの評価が難しいと感じるので、どのように

評価をされているのか、教えてください。

- ・主体的に学びに向かう態度の評価材料として、従来までの関心・意欲・態度（授業態度、忘れ物、授業へ向かう姿勢、発表、提出物）の評価をどのように取り入れていくのか難しさを感じた。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料について
- ・学びに向かう人間性は日々どうしたら良いのかな？と自問自答しています。

④その他

- ・評定における観点ごとの取り扱い（重みづけ）について各校の実態はどうなっているか。
- ・タブレット学習でおススメのアプリ等があれば交流させて頂きたいです。

Q1:主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力、人間性等)の評価方法は？

参考資料：学習指導要領（解説編）

「指導と評価の一体化」のための学習評価

（体育分野 第1学年及び第2学年）

（3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を養う。

【思考判断と連携した記述、観察などによる評価】（例）

・「主体的に学習に取り組む態度」については、意思や意欲を育てるという情緒面の例示に対応し、「～しようとしている」として評価規準を設定する。

例) 例示：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとする事。

↓

評価規準：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向だけを評価するのではなく、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について思考錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという側面を評価すること。



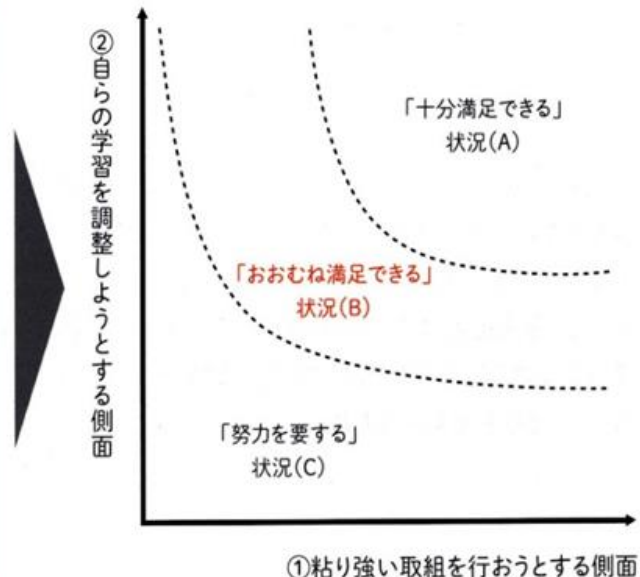
忘れ物の回数や準備運動の真面目さ、発言の回数ではない！！

- ・ワークシートによる見取り（自己調整など）
- ・観察などによる評価（公正に取り組む/自己の役割を果たす/健康・安全など）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

コラム

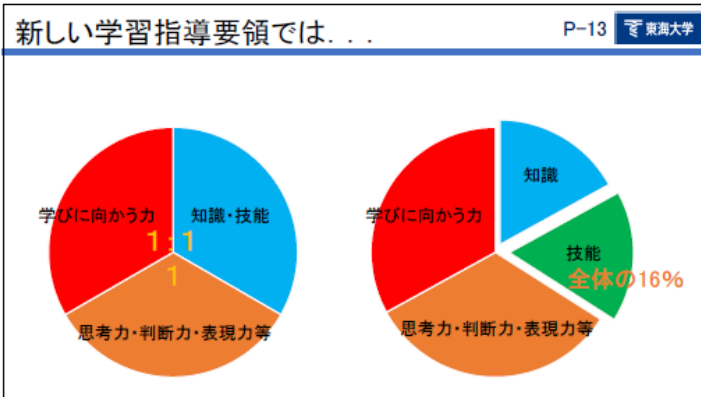
「主体的に学習に取り組む態度」は、「関心・意欲・態度」と同じ趣旨ですが…
～こんなことで評価をしていませんでしたか？～

平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価について指摘されている課題として、「関心・意欲・態度」の観点について「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的

に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。これを受け、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。

Q2:技能の評価、知識との配分は？技能テストは必要？

参考資料：2020 保体部会理論研修会（東海大学 高橋正年さん）



知識・技能の評価

P-35 東海大学

【知識：ペーパーテストによる評価】
 ※知識の内容：①種目の特性や成り立ち，②技の名称や行い方，③関連して高まる体力
 ※知識の習得過程の特性
 ◆指導期間：短い(一気に)
 ◆習得する期間：長い(単元を通して)
 ◆評価する時期：単元終了後に一気に

【技能：観察による評価】例：
 ※技能の内容：①ボール操作，②ボールを持たないときの動き
 ※知識の習得過程の特性
 ◆指導期間：長い(単元を通して)
 ◆習得する期間：長い(単元を通して)
 ◆評価する時期：単元を通して何度も
※技能の習得時期に差がある。
 ※早く習得することに価値があるわけではない。
 ※一定の期日に習得することが目的ではない。
⇒実技テストは不要

具体的な技能の評価(観察)

P-36 東海大学

※技能の習得時期に差がある。
 ※早く習得することに価値があるわけではない。
 ※一定の期日に習得することが目的ではない。
⇒実技テストは不要

授業終了後に...

	ドリブル	11/6	11/8	11/10	11/12	11/17	11/19	確定	11/10
A ○	高橋							B	B
B 空欄	齋藤	○						A	A
C ✓	田中	✓	✓	✓			○	A	C
	伊藤				○			A	B
	工藤	✓	✓	✓	✓	✓	✓	C	C

- ・ 3観点を1：1：1で評価する場合、技能は全体の約16%である。
- ・ 技能テストの点数だけを評価するのではなく、毎回の習得状況を加味できると望ましい。(観察)
- 技能の習得時期には個人差がある、一定の期日に習得することが目的ではない・・・
- ・ 知識と技能の配分は半分程度が望ましい。